

【工夫のポイント】

- 再整備により、大区画の農地を造成し、**担い手の経営規模の拡大を推進**
- 園芸作物の作付け拡大を図り、**収益性の高い農業を展開**
- **道の駅での作物販売**や**酒製造会社との契約販売**による産地化

【取組地域の概要】

○位置
しもつけし
栃木県下野市



- 主要作物
・米、麦、いちご、ブロッコリー、花き等
- 主な支援施策
・県営経営体育成基盤整備事業(H17~H22)
・県営農山漁村地域整備交付金(H23~H24)
・多面的機能支払交付金

基盤

大区画化・汎用化による労力軽減と高収益作物の導入

基盤整備により、大型機械の作業効率が向上し、**労力の低減を図るとともに、汎用化により高収益作物の導入**を実現。



基盤整備
(H18年~H21年)

【整備前】

農道が狭小であり、**区画も効率的に耕作するには改良の余地**があった。また、**ほ場整備後30年近くが経過し、水田の排水機能が低下**してきており、**麦・大豆の生育不良**も見られていた。



生産現場

担い手への農地集積・集約化

- いちご、きゅうり、花き、ブロッコリー等の作付け拡大など**収益性の高い農業**が展開
- 経営規模100ha以上の農事組合法人が設立



地域の取組

絶滅危惧種「トウサワトラノオ」の保全

- 自治体、小学校、高校と一体となった**絶滅危惧種の保全活動**が展開



加工・流通

道の駅などへの生産物の出荷

- 野菜の安定供給が可能となり、事業で用地を創設した道の駅で販売(道の駅年間来場者250万人)
- 酒製造会社との酒米の**契約販売**による産地化



加工用米・園芸作物の生産拡大

- 酒米「山田錦」の**作付け拡大**(15.0ha)
- 水田の汎用化による新たな園芸作物の導入**(きゅうり、花き、ブロッコリー 計5.7ha)
- いちごの作付け面積が大幅に増加**(1.9ha⇒5.9ha)

